

(仮訳)

## 科学的助言ラウンドテーブル 2025

### 「変容する国際秩序と科学技術顧問・科学的助言の役割」

2025年10月4日（土）16:30-17:55 京都国際会館

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構

#### 議論サマリー



#### 出席者（アルファベット順）：

|               |                    |
|---------------|--------------------|
| ロベルト・ダイ克拉ーフ   | 国際学術会議次期会長         |
| 橋本和仁          | 内閣官房科学技術顧問         |
| トニー・ハイメット     | オーストラリア首席科学官       |
| ケイ・コイズミ       | 前米国OSTP首席副局長       |
| 小安重夫          | 文部科学大臣科学技術顧問       |
| ジュリア・ロングボトム   | 駐日英国大使             |
| 前川禎通          | 防衛大臣科学技術顧問         |
| 松本洋一郎         | 外務大臣科学技術顧問         |
| アンジェラ・マクリーン   | 英国首席科学顧問           |
| 宮園浩平          | CSTI常勤議員           |
| モナ・ネマ         | カナダ科学顧問            |
| 大野英男          | 経済産業省特別顧問（科学技術担当）  |
| ジョン・ロシェ       | ニュージーランド大統領科学顧問    |
| ベティーナ・ロッケンバッハ | レオポルディナ（ドイツ学術会議）会長 |

## 進行・事務局：

有本建男

科学技術振興機構（JST）参与（進行）

浅野佳那

同 研究開発戦略センターフェロー

## 議論サマリー：

世界情勢の変化による地政学的緊張の高まりや、急速な発展に起因する科学技術の不確実性の高まりなどを背景に、これまで以上に信頼に基づく科学助言体制の強化が求められている。その中核となるのは、国内外および省庁横断の科学技術顧問ネットワークの形成と科学技術顧問のプレゼンスの向上である。また、平時からの科学的助言の基盤を形成しておくことが危機時の迅速かつ有効な助言にとって不可欠である。こうしたことを踏まえて、出席者は、人材育成を一体的に強化しつつ、即時かつ効果的に助言を提供するための、持続可能で信頼され、強靭な科学助言体制と堅固なバックオフィスを確立する必要性を改めて確認した。また、各国・地域のベストプラクティスや直近の取り組みを共有し、科学技術顧問が果たすべき役割や機関として抱える共通課題について率直な議論を行った。具体的には、以下のことを確認し、最後に、各国の方針や取組を尊重しつつ、責任ある省庁横断ネットワークの可視化と国際強調、安全保障を考慮した迅速な助言手順の整備、研修・人材循環による能力強化を通じて、持続的な科学助言体制を構築することが重要であることを認識し、今後このような対話を積極的に継続していくことで一致した。

- **科学助言の原則と倫理：**混沌とした世界情勢だからこそ、エビデンスに基づく助言を基本とし、不確実性を誠実に提示すること、社会科学・倫理的視点、地域・先住民知なども踏まえた包摂的な科学的な助言を提供しなければならない。また、科学技術が国益にとって重要となっているからこそ、「科学の政治化」を避けつつ、国家政策・戦略と科学の距離を縮める必要がある。
- **ネットワークと信頼基盤の強化：**科学技術顧問は、「知の外交官」として、国内外・省庁横断の信頼ネットワーク、特に顔が見える人と人との繋がりを構築すべきである。本ラウンドテーブルのように各国の顧問が参集することは極めて重要であり、また、英国の省庁 CSA（Chief Science Advisor）ネットワークや日本の各省の科学顧問の連携のように、国内の顧問が連携することも同様に重要である。さらに科学技術顧問と政産学官等とのネットワークの存在を「見える化」し、プレゼンスを向上することも効果的である。
- **研究コミュニティの国際連携推進への貢献：**国際活動において、研究セキュリティ確保が求められる今日において、研究現場に精通した科学技術顧問は、国際連携や人材流動を阻害しない制度設計を、省庁を横断して参加するとともに、各国の研究セキュリティ枠組み踏まえ、国際的な調和もはかる必要がある。また、国際的な人材流動を推進するため、例えば日本の ASPIRE 事業や J-RISE Initiative のように具体的な施策を先導することも重要である。

- **緊急対応と迅速な助言の仕組み**：危機時に迅速に科学的助言を行えるよう、平時から招集・対応体制を整備すること、不確実性や非コンセンサスの伝達方法を明確化し、科学助言の信頼性を確保することが重要である。ラピッド・レスポンス用の手引き（スコープ、タイムライン、不確実性表現等）を国際的に共有することも有効である。
- **人材育成とベストプラクティスの共有**：科学的助言を支える「技」としてのスキル育成と組織的能力の強化を重視し、研修、コミュニケーション能力、制度的キャパシティに対する投資を強化することは重要である。例えば、科学助言研修やサイエンスコミュニケーションのワークショップを共同実施し、国際的にモデルを共有することが有効である。

**留意事項**：チャタムハウスルールで議論を実施。